

入門マクロ経済学Ⅱ

科目ナンバリング ECT-104
選択必修 2単位

富田 秀昭

1. 授業の概要(ねらい)

新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、皆さんは日々たくさんの経済関連ニュースを目にしていることでしょう。この授業では、一国経済全体に関わる事象を対象とするマクロ経済学について、各経済主体の果たす役割を考慮しつつ、その考え方の基礎を学ぶことを目的とします。

「入門マクロ経済学Ⅱ」においては、経済政策の役割に対するさまざまな立場による見解の違いを明らかにした後、日本が解決すべき問題と政策を重点的に論じ、経済成長や海外との取引などを決定する主要な理論を修得することを目指します。

2. 授業の到達目標

① 経済安定化のための経済政策の役割に対して、さまざまな立場による見解の違いを経済学的に説明できる。(汎用的技能)

② 日本の財政赤字、インフレとデフレ、失業など解決すべき問題と政策について理解し、説明することができる。(汎用的技能)

③ 各国の経済成長、海外との取引や為替レートを決定する主要な理論を修得する。(知識・理解)

3. 成績評価の方法および基準

(1)小テスト(到達目標①、②、③) 40%(重要な概念や用語の理解を問うもので、計4回、不定期に実施)

(2)期末試験(到達目標①、②、③) 60%(全範囲を対象として理解度を問うもので、最終授業時に実施)

・小テストの講評、解説については、次の授業時間内で実施します。

4. 教科書・参考文献

教科書

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門(第5版)』 有斐閣、2016年

5. 準備学修の内容

(1)事前に教科書の関連部分を熟読し、疑問点などをチェックして授業に臨んでください。

(2)原則として授業内容の要点を記載したレジюмеを毎回配付するほか、必要に応じて配付する資料に基づいて、入門レベルのマクロ経済学で必要な論理的な考え方を丁寧に解説することを心掛けるつもりです。帰宅してから、その日の授業で学修した内容を見直すなど、復習に重点を置いて取り組んでください。

(3)配付するレジюмеは空欄穴埋め方式とするので、授業を聴きながら該当箇所に用語を記入していくこと(レジюмеの完成版は次の回の授業で配付します)。

6. その他履修上の注意事項

(1)入門レベルのマクロ経済学を体系立てて理解するため、「入門マクロ経済学Ⅰ」からの連続履修を希望します。

(2)授業中の私語など、他の受講者に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | <ガイダンス>
授業目的、授業方法、成績評価、準備学修および授業内容について |
| 【第2回】 | <講義> 経済政策はなぜ必要か? (1): 経済政策の有効性 |
| 【第3回】 | <講義> 経済政策はなぜ必要か? (2): 非伝統的金融政策 |
| 【第4回】 | <講義> 財政赤字と国債(1): 日本の財政赤字 |
| 【第5回】 | <講義> 財政赤字と国債(2): 国債発行の影響 |
| 【第6回】 | <講義> インフレとデフレ(1): 日本のインフレ、インフレの原因 |
| 【第7回】 | <講義> インフレとデフレ(2): インフレのコスト、デフレ |
| 【第8回】 | <講義> (オンライン授業) 失業(1): 失業の原因、フィリップス曲線 |
| 【第9回】 | <講義> 失業(2): 自然失業率 |
| 【第10回】 | <講義> 失業(3): 日本の失業率の動向 |
| 【第11回】 | <講義> 経済成長理論(1): 経済成長とその源泉、主な経済成長理論 |
| 【第12回】 | <講義> 経済成長理論(2): 成長会計 |
| 【第13回】 | <講義> オープン・マクロ経済(1): 国際収支表および為替レート |
| 【第14回】 | <講義> オープン・マクロ経済(2): 為替レート・経常収支の決定要因 |
| 【第15回】 | <まとめ>
1) 授業の総括
2) 期末試験 |